

# NEXT CHALLENGE!!

## 森と共に生きるまち宍粟の みどりじまん新聞



Vol. 20

令和7年9月号

～やってみて、初めて見えてくる～

私は41歳で、夫と2人の子供がいます。そして、今は森林大学校生。数年前から里山保全活動に関わる中で、森林に対する関心が強くなり、「いつかここで学べたら良いなあ」と思っていました。40歳が入学の最後のチャンスだと知り、挑戦しました！

### 兵庫県立森林大学校 8期生

大村 素子  
Omura Motoko



競技会の様子

私たち夫婦は、いつかは田舎で農作業をしながらのんびり暮らしたいと考えていましたが、田舎暮らしはとても体力が必要だとわかり、予定を

大学時代から現在まで  
私は、公認会計士をめざして京都の大学に進学しましたが、社交ダンスサークルに入ったところ、その魅力の虜になり、社交ダンスに全力を注ぐ日々を送りました。その結果、学生の全国大会で二位という成績を収めることができ、その勢いに乗って、大学を休学しオーストラリアへダンス留学もしました。そして、卒業後はプロ競技選手となり、全国大会で五位入賞を果たすことができました。結婚・出産後も、家族の協力を得ながら活動を続け、一昨年、競技選手生活に幕を下ろしました。

私たちが夫婦は、いつかは田舎で農作業をしながらのんびり暮らしたいと考えていましたが、田舎暮らしはとても体力が必要だとわかり、予定を

これまで、どの選択をする時にも葛藤がありました。自分のダンスがプロの世界で通用するか悩んだり、自分の理想とする働き方と現実とのギャップに苦しんだこともあります。何度も壁にぶつかり、八方塞がりだと感じるたび、自分と向き合い、悩みながら挑戦してきました。それを乗り越え、今言えるのは、「やってみて、初めて見えてくる！」ということ。いくら悩んでも、やってみなくちゃ結果は分かりません。挑戦はとても勇気があることですが、大抵のことは大丈夫、なんとかかなると



佐用町の私有田



飼育中の雌鶏

早め、八年前に大阪から佐用町に移住しました。ダンスとヨガのインストラクターをしながら、米作り、ニワトリ飼育、セルフリノベーションなど、ここでできない毎日を楽しんでいます。家族や地域の方々との助け合いながらの暮らしに、日々、感謝の気持ちでいっぱいです。

### 「みどりじまん新聞」とは？

「木育」の視点を持って「森と共に生きるまち“しそう”」が誇る“みどり”の魅力を発信し、森や木に関心をもってもらうことを目的としています。主に「**兵庫県立森林大学校**」の学生が執筆した記事を掲載し、学校での学びを生かして人と木や森林との関わりを伝えてもらいます。

バックナンバー  
はこちら



## いざ、森林大学校へ

森林大学校への入学も、大きな挑戦でした。年齢や家族のことを含め、経験も知識も無い私  
が本当にやっていけるのかとても不安でした。

でも、挑戦して良かったです。同級生は年齢差に戸惑いながらも仲良くしてくれて、先生方もとても親身に接してくださいます。そして、森林大学校で学ぶことで、森林に関わる仕事への思いが大きくなりました。

いつも支えてくれる  
家族に感謝！



応援してくれている  
ダンスとヨガの生徒の  
皆さんにも感謝です！

森林大学校の授業の中で、これまでが一番楽しかったのは、樹木学実習です。当たり前のことですが、私たちが普段何気なく見ている樹木の一つひとつが名前を持ち、それぞれに個性があります。樹木の事を学ぶ前は、一つひとつに目を向けることがあまりなく、風景の一部として捉えがちでしたが、実習を経験

した後は、姿形や香り、実りや動物や虫たちの息遣いを感じられるようになりました。「木を見て森を見ず」ということわざがあります。木を見ると森を知ることもできるのだなと気づいた瞬間でもありました。

森林大学校を卒業すると、「樹木医補」の資格を取得することができま。樹木医補は、樹木の専門家である樹木医の活動を補佐する仕事です。経験を積み、樹木医をめざすこともできます。林業には木を切るだけでなく、木を守り育てる仕事もあるのです。



樹木学実習の様子  
(音水国有林にて)

森林大学校では、座学で必要な知識を習得し、実習でそれらを実践することで、自分の知識と技術を研鑽します。講師の先生方は、実際に現場を経験されている方も多く、その経験談も

とても興味深いです。

そして、大学校での学習内容は暮らしの中でもとても役立つています。私の家では冬、薪ストーブを使って暖をとっています。昨年は原木のキノコ栽培にも挑戦。子どもたちと一緒に菌を原木に打ち込みました。秋には、庭のどんぐりから苗木を作ろうと考えています。家の山は針葉樹林なので、広葉樹を少し植えてみたいと思っています。



自宅の薪ストーブ

近年の集中豪雨の話聞くたび、防災意識も高まっています。授業で学んだ地形図の見方や特性への理解が、ハザードマップのより深い理解に繋がっています。

災害時に水や土砂と共に流れてくる木は、災害の規模を拡大する恐れがあります。災害に強い森をつくるためにはどうし

たら良いかという視点を持つことが、とても重要になってきます。

山の状況は一様ではないので、地域の山について知ることは、そこで暮らす人々の安全を守ることに直結していると言えます。

## 未来に向かって

森林大学校を卒業した後、私にどんな仕事ができるのか、まだ分かりません。ダンスとヨガのインストラクターを継続し、子どもたちとの関わりも大切にしながらできる働き方を模索しているところです。

森林に関わる業務は多種多様なので、私にぴったりの仕事を見つけたと思っています。



たくさんの経験を積み重ねる毎日！  
これからも、がんばります！！



専修学校  
兵庫県立森林大学校  
Hyogo Prefectural College of Forest Management  
(宍粟市一宮町倉 772-1)

森林経営や森林林業に関わる  
人材を幅広く育成する学校

【学校見学 随時受付中】



学校 HP



宍粟市は「森林」を活用したまちの創造・SDGs に取り組みます